様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：３４４１９
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２７２００９６

研究課題名（和文）江戸時代を中心とした文学と絵画の相関性の多面的研究

研究課題名（英文）Multifaceted studies of the correlation of the painting and literature with a focus on Edo Period

研究代表者
井田　太郎（IDA, Taro）

近畿大学・文芸学部・准教授

研究者番号：２０４１３９１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,200,000円、（間接経費）　660,000円

研究成果の概要（和文）：江戸時代を中心とした文学と絵画の相関関係を考察するのが、当申請研究の目的であった。（１）具体的な作品によって相関性を解明すること、（２）個別事例を総合した巨視的なパイロットケースを作成することを課題とした。（１）は新資料の紹介なども含みつつ、「抱一の俳諧」・「抱一と其角」で酒井抱一、『古画備考』という斯界の基礎資料に詳細な検討を加えた「英流の書画情報」と「幻住庵記考」で英一蝶について考察を施した。また、（２）は「〈実証〉という方法」で文学と絵画の相関性が扱われてきた枠組を考え、「〈風景〉」で新しい文学と絵画の相関性研究を実践した。

研究成果の概要（英文）：Considering the correlation between painting and literature with a focus on Edo period was my object of this study.I intended to elucidate the correlation with each works. At the same time, I was trying to make a macroscopic pilot case.

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：若手研究(B)

キーワード：松尾芭蕉　酒井抱一　俳諧　近世文学　美術史　松平定信　谷文晁

１．研究開始当初の背景

当該申請研究の開始当時は、日本文学、ことに近世文学（江戸文学）の領域では現在ほど visual studies に関わる学術的な研究が進んでいなかった。

しかしながら、実際の研究・教育の現場では一般にも解りやすい（ように目に映ってしまう）視覚的な資料が多用される段階にはあった。成果公開を一般にわかりやすく提示する装置としての展覧会というのが増加していた（この状態は今日も続いている）。

申請者は江戸時代の俳諧を研究してきたが、修士論文を書いたころより美術史学のディシプリンである様式論を学んできた。

このような仕儀に至ったのは、俳諧のばあい、ことさら絵画との距離が近く、学術的に研究をするならば、様式論を正しく習得する必要があったからである。そういう立場にあったので、文学研究からの視覚的な資料の安易な多用に危惧を感じてきた。とりわけ、申請者が研究のフィールドとする江戸時代は、上代・中古・中世・近代と研究の進展の様子が異なっており、学際的に visual studies が考察されてきたことはあまりない。

そこで、発想し、目指したのが文学を把握しながら、美術史学の様式論をふまえ、統合する形態の学際的な研究であった。

２．研究の目的

当該申請研究は、

（１）　江戸時代の日本文学と絵画の相関性を多面的かつ具体的に考察する
（２）　考察する方法のパイロット・ケースを提示する

という二点が主たる目的であった。
具体的には、画家や流派でいうならば英一蝶・酒井抱一・琳派、テーマでいうならば風景に注目して、それらにおける文学と絵画の相関性を考察するのが目的とした。
あわせて、方法論的な側面にも注意を払い、新しい方法論めいたものの開発を企図した。
これらによって、文学研究が陥りがちの（文学研究者が美術史学にアプローチするときにやりがちの）様式論の理解がたりないという弊を回避した。

３．研究の方法

研究方法としては、対象とした画家やその所属した文化圏の文学関係の資料を調査し、読み込み、整理した。また、絵画関係の資料は特別観覧や熟覧を含め、実見を行って調査を進めるという形態をとった。
これはともすると、机上の空論めいたものになりがちの学際的研究を正確なデータに基づき、遂行するという趣旨である。

４．研究成果

当該申請研究は、具体的事例に即して文学と絵画の相関性を攻究する方向、巨視的な視点に立って枠組の成立などからも考察する方向の二つある。

以下、第一から第五まで具体的事例に即した研究について述べる。

第一に、英一蝶に関して。大きな成果としては、「幻住庵記考」で一蝶と俳人松尾芭蕉の関係を鮮明にしたこと、俳諧における視覚的要素を解明する研究のパイロット・ケースを行ったことが挙げられる。

一蝶と芭蕉は天和期前後に実交渉をもち、限定的な関係に止まると考えられてきた。しかし、元禄四年に出版された『猿蓑』所収の芭蕉の俳文「幻住庵記」は、一蝶が約十年後に書いた「朝清水記」に緻密に引用されている事実はすでに本研究以前に申請者の指摘したところである。

そこで、申請者は「幻住庵記」を通し、実交渉のほかに両者が共有していた要素を当時の社会的立場に探り、身分制の埒外にともにあったことを論じた。元禄文化を大きく彩る画家一蝶と俳人芭蕉の共通性に関し文学・絵画というジャンルを超えて考える基礎を構築した。

あわせて、「幻住庵記」という俳文、ことばの領域でできたものの形式に、絵画で室町時代以来培われた視覚的な形式が間接的に反映していることを想定することで、文学と絵画という異ジャンルを考察する方法の一パイロット・ケースを提示した。これも申請した計画にあった目標の一つを達成したものである。

また、「英流の書画情報」という基盤になりうる論文も執筆した。これは一蝶の伝記研究の基盤となる『古画備考』の記述を詳細に検討したものである。

第二に、酒井抱一に関して。申請期間中の 2011 年は酒井抱一の生誕二百五十周年にあたり、「抱一の俳諧」を書いた。学界未知の新出資料を多数含むもので、おりからの時宜を得た。いまなお未解明なことの多い抱一の初期の活動を検証した。

なお、紙数の少ない同論文を補足するため（宝井其角が一蝶とも交流をもっていたこ

ともあり、当該年度の研究とも大きく関係する)、「抱一と其角」で其角と抱一の文学にとどまらない関係性について論じた。
　第三に、琳派に関して。こちらの方は資料の整理、研究史の整理にかなり手間取っているが、ようやく論考を準備する段階に入っている。

　第四に、風景について。こちらについての研究は国立歴史民俗博物館・国文学研究資料館で共催された「都市を描く」第二部で生かした。

　研究部分は当該申請研究で行い、アウトプットとして展覧会（当時の本務校国文学研究資料館の業務の一環）を行った。申請者は国文学研究資料館で開催された第二部の企画立案者を務めた。こちらに関しては、図録という形態で図版の集成や論考・解説などを書きながら、文学と絵画の相関性が具体的に一般にむけ提示できたと考える。

　ここからは、巨視的な視点に立ち、枠組の成立などからも考察した研究について述べる。

　「〈実証〉という方法」という論文を執筆し、明治時代以降の近代学問の成立と展開の中、文学と絵画というジャンル自体が文学研究の分野においてどのように扱われてきたかという大きな枠組に注目した。

　また、松平定信・谷文晁の文化圏における風景の考え方を文学と絵画からたどろうとする論文「〈風景〉」を執筆した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）

①　井田太郎「江戸名所の心理学」
（『歴博』171、2012 年 3 月）　査読あり　pp.3-5

②　井田太郎「江戸の風景をめぐる心理学」
（『HUMAN』2、2012 年 3 月）　査読なし　pp.32-42

③　井田太郎「幻住庵記考――『猿蓑』巻六という場所 」
（『国語と国文学』88-5、2011 年 5 月）　査読あり　pp.111-124

④　井田太郎「江戸名所を構成するもの」
（『品川歴史館紀要』26、 2011 年 4 月）　査読なし　pp.103-119

⑤　井田太郎「抱一と其角――「吉原月次風俗図」をめぐって」
（『文学・語学』199、2011 年 3 月）　査読あり　pp.98-108

⑥　井田太郎「抱一の俳諧」
（『別冊太陽』、2011 年 1 月）　査読なし　pp.29-31

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計４件）

①　井田太郎「〈風景〉」
（河野真理編『近代日本政治思想史』、ナカニシヤ出版、近刊）　査読なし　頁未定

②　井田太郎「〈実証〉という方法」
（藤巻和宏・井田太郎編『近代学問の起源と展開』、勉誠出版、近刊）　査読なし　頁未定

③　井田太郎「英流の書画情報」
（古画備考研究会編『原本『古画備考』のネットワーク』、思文閣出版、2013 年 2 月）　査読なし　pp.285-310

④　井田太郎　第Ⅱ部の総論、資料解説
（国立歴史民俗博物館編『人間文化研究機構連携展示　都市を描く――京都と江戸』図録、国立歴史民俗博物館、2012 年 3 月）　査読なし　pp.215-216，pp.225-228，pp.230-234

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者

井田太郎（IDA, Taro）
近畿大学・文芸学部・准教授
研究者番号：２０４１３９１６

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：